

自然災害の土地を回復したい人の手で、
次の世代に緑を残す



植林は未来への懸け橋

2024 年インドネシア

植林ボランティアツアー報告

2024 年 12 月 6 日～13 日



NPO アジア植林友好協会

info@agfn.org

<https://agfn.org>

植林活動を支援し続けて頂いている個人、企業、団体の皆様へ

昨年は、年明けから大震災による被害が発生から始まり、今もなお避難生活を余儀なくされ、生活再建も多くの困難が予想されます。

被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。

改めて、自然災害の厳しさを思い知らされております。

様々な自然災害があり、自然の前では人間は無力だと感じさせられますが、自然災害をできる限り被害を少なくする知恵と工夫を発揮することが求められています。

今回の被害からの復興は何年もの長い時間がかかると思います。

わたしたちが、2007 年より始めているインドネシア植林活動は、1849 年に初めての火山爆発があり被災した地域です。

わたしたちが 2007 年に植林活動を始めるまで 158 年、この間に何度か林業省により植林も試みられたようですが、根付かせることができませんでした。

被災した広範な森の被害により、水源涵養力が低下し、隣接する湖（バツール湖）の水位が低下し、下流地域の住民の皆さんの生活用水の危機が現れ始めていました。

以来、17 年間、継続して植林活動をしてきた結果、木々が育ち、湖の水位も回復して、被災した土地でも一部ですが農業が始まっています。

自然災害は、広範囲に及んでいて、一朝一夕では回復させることはできませんが、地味な努力を継続することで、環境をより良き方向に導くことができるということを感じさせていただいています。

これもすべて、この植林活動を支援していただいている皆様のお力添えであると、深く感謝いたしております。本当にありがとうございます。

今回は、2024 年 12 月 6 日から 13 日まで、植林ツアーを少ないメンバーでしたが実施することができました。2019 年以来東カリマンタンにも 5 年ぶりに行くことができました。私どもの植林活動の原点は人の手で壊してしまった熱帯雨林を再生したいとの思いです。

2000 年からコロナのためにカリマンタンへ行くことができませんでしたが、4 年ぶりに東カリマンタンの植林現場も確認することができました。

みんな自然と共に懸命に生きていて、より良き森に再生してくれるものと期待しています。

寒さ厳しき折、皆様くれぐれもご自愛くださいませ。

2025 年 2 月吉日

地球に生きる人として大切な行いです。 一人でも多くの人たちに

この思いが伝わるように願い、植林ボランティアツアーにも取り組んでいます。

❖植林の前に日本語を学ぶ大学生と。



2007 年植林開始地点前にて集合写真

雨の中これまでの植林木
を散策

※義母の逝去記念木 25 年目➡



← レストランでバリ舞踊鑑賞
植林と環境についてのスピー
ーチコンテスト



前夜祭の集合写真



地元の大学生とツアー参加者集合写真



環境や植林に
についての想いを

スピーチコンテスト：ベティ先生

日本から有志の皆様にご寄付していただいた「ゆかた」を女子学生にプレゼント



アジア植林友好協会と名づけてスタートし、
この活動の幅を広げることができたと喜び
ひとしお、こんな活動も望んでいたことを
改めて、思い起こすことができました。

❖世界平和の森づくりプロジェクト



地球規模、世界中で人間活動や**自然災害**などにより、森林減少が進行しています。

特に熱帯雨林の伐採は深刻で、多くの生物種の生息地が失われています。

このことは、生物多様性の喪失だけでなく、地球の気候にも大きな影響を与えています。

人間活動以外にも森林火災など自然災害により森林が破壊され危機的な状況です。

森林が減少すると、自然界の**バランスが崩れ**、気候変動の加速につながっています。**人の手**

で木を植える植林は、森林を回復し、より住みよい地球を保つための大切な手段です。

❖人の手による、自然回復のための植林 in Bali

わたしたちがバリ島で取り組んでいる再植林は、火山爆発により壊滅的な被害を受けた地域の、環境に対して多くの良い影響をもたらしています。再植林した土地では木々が7年目以降は根が十分に成長して、期待以上の成長をしてくれています。育った森林は、土壌の水分を保有し、土壌水分の保護や土壌の浸食防止にも役立っています。



バリでの植林を始めたころから、日曜日に開催してきた「植林祭」に自主的に参加していただいていた**片岡領事夫妻**が一昨年転勤により、再赴任されて、2024年の植林祭に参加していただきました。もう一人のインドネシアの眼鏡の人物はバリ緑化協会の副代表**プロボ氏**です。

火山爆発被災地を再生世界平和の森



溶岩礫だらけの土地に、有機堆肥と山土を投入して、そこにそのまま植えて自然分解する苗木を植えて、植生の回復を目指しています。

2007年から始めて17年、試行錯誤の結果、2024年現在で168,594本、再生できた土地面積は280haを超えました。



火山爆発被災地が 17 年でここまで回復できました。↓



片岡領事夫妻と鹿養さんと

中嶋さんと学生たち

鹿養さんと女子大生

バリで植林を始めてから 17 年で、火山爆発被災地はここまで回復することができました。
一重にたくさんの皆様の継続的なご支援による賜物と感謝です。継続は力、森の再生は継続的な行動が一番大切だと感じています。再植林によって失われた森林を回復することは、これらの環境サービスを再生し、住みよい地球の健康を保つために、今を生きるあなたの協力のチカラが不可欠です。

❖住民の生活が復活し畑づくりが。。。

下の写真は過去の写真を使用していますので、
日付にはがずれありますが、現在過去の植林地は農地に転用されています。植林した木が倒されているのは、残念ですが、別な視点で考えれば、植林が地元住民の生活の糧を生み出すことができていると感じました。



こんな土地に木を植えたことで農業も始められています。

荒廃農地の再生



火山爆発被災地から、植林により土地が安定し農業利用へ

こんな手順で木を植える。未来に生きる子供たちのため

再植林には、環境に適応した、適切な樹種の選定、土壌改良、水管理などが含まれます。すべては自然との調和を目指すことにあります。

Proses reboisasi



このような溶岩礫と火山灰が堆積した土地に、樹木が根付くことができるかどうか不安でしたが、確実に根付いてよく育ってくれていて、自然の再生力には感動と感謝です

新鮮な山土と有機たい肥の土を投入する



3 カ月かけて、苗木を準備しています。ポットは日本製の不織布で創られた自然分解する製品を使っています。植えるときに根を空気にさらさないで、各段に活着率が向上しています。林業局の植林とは歴然とした違いがあります。



連続参加の山岸さん



日本語学科の女子学生と

植林に奮闘する小林さん →



植林参加 10 年目の鹿養さん



初参加の中嶋さんと STIBA の学生たち



引率のヘティー先生



学生たちとの集合写真



❖事例紹介：JAC リクルートメント様の貢献 JAC PPP Project

2008 年に植林したアンププの今：16 年目



2024 年 12 月 8 日植林祭の様子

1 件の転職紹介が、1 本の苗木になり地球の未来を育む取り組みを行っています。

One Placement creates One Plant to save Planet 今後もこの活動を通じて動植物の保護を行っています。

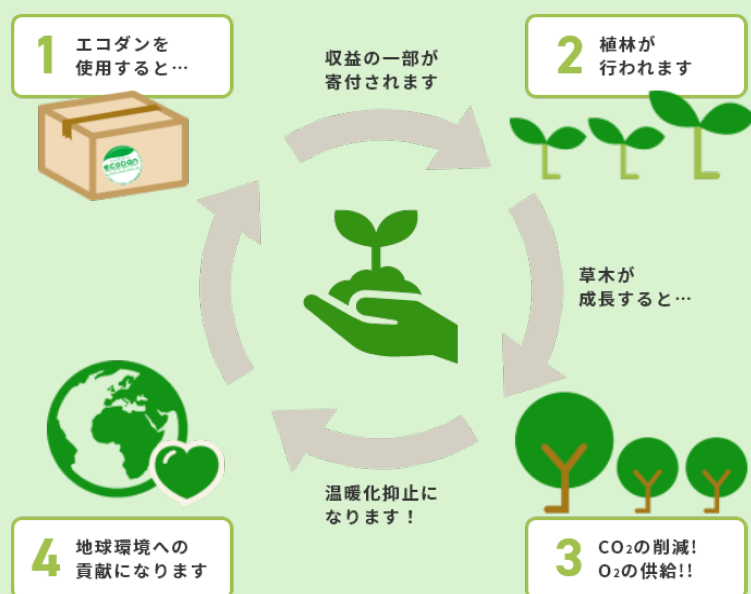
2008 年から毎年継続して支援いただき、2024 年末で 86,100 本の支援をいただき、火山爆発被災地の再生に貢献、累計再生面積累計 140 万㎡を超えています。

❖事例紹介：フジダン FUJIDAN

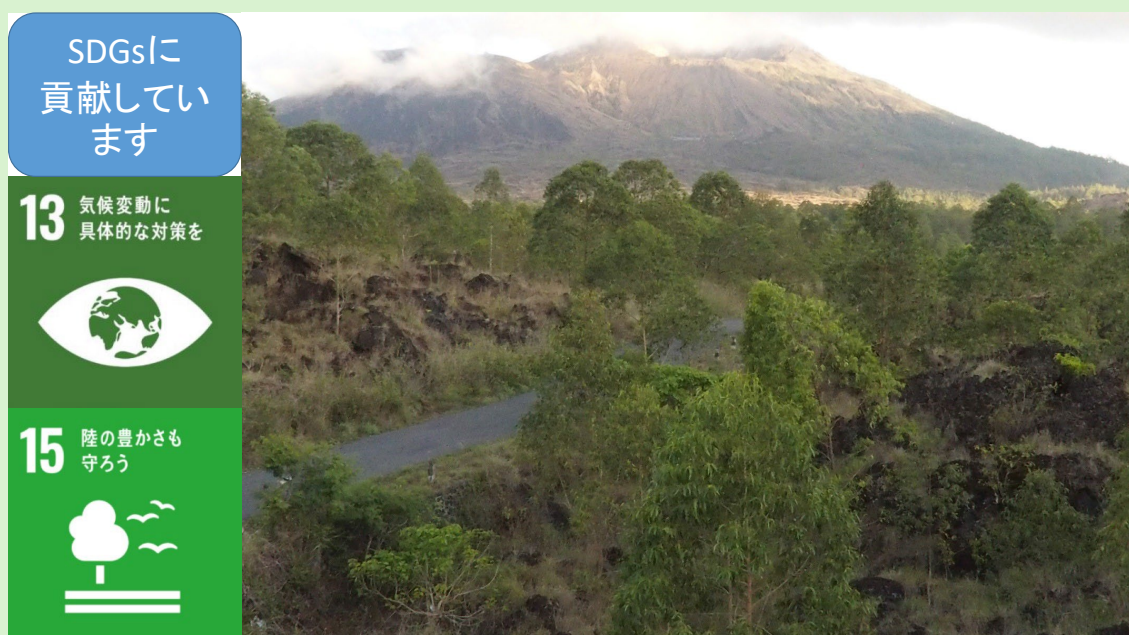
❖株式会社フジダン様 段ボールのシート・ケース、環境に優しい梱包資材の製造と販売
(fujidan.com)

フジダン様は、環境保護プロジェクト ecodan（エコダン）を通し、植林を中心と

した環境活動へ貢献し、社会課題の解決に向けた取り組みをすすめています。
樹木（パルプ）の一方的使用ではなく、チャレンジ 25 や植林活動を通じ、
CO2 削減+ O2 の供給を目的とした環境保護の取り組みを行います。
2010年から毎年継続して支援をしていただいています。2024年末現在、累計
で 16,235本、再生面積は約27万㎡を超えています。



❖7年目バリの植林現場、「みんなで植林」でここまで回復！



JAC 様 フジダン様ほか多くの企業団体、個人の皆様の支援により森を形成する土地に変貌しています。もう植林地でなく「森」と呼べるほどに回復しています。人の手で植え、自然が育みここまで回復した火山爆発被災地、驚きと喜びでいっぱいです。

❖バリ島からカリマンタン島へ

「生命の森づくりプロジェクト」

生物多様性を育み、人々の生活にも貢献するための森づく



+



在来樹主で主木に育つ樹種
メランティーなどを植林

伐採と焼畑で荒廃した土地に
地元民の生活に役立つ樹種を植林



2 次林内に樹下植林をする

樹下植林



伐採・焼き畑で放置された土地

草原を開墾チーク

を植林



15 年後、多様性豊かな森に育っています

15 年後、草原がチークの森に生育中

■ 植林で森を再生している現場～一目瞭然～

- 生物多様性の維持
- 熱帯雨林の維持・再生
- 雇用機会の創出
- 地球環境の保全



- 草原地の有効活用
- 持続的な木材供給
- 雇用機会の創出
- 土壌の保全

生命の森づくりによるSDGs貢献

(2000年～2021年6月)

- ・東カリマンタン州で2000年から生命の森づくりプロジェクトとしてチーク累計植林本数**109,100本**
- ・チークの再生面積累計**133,700㎡**
- ・在来種の植林も同本数で再生面積は**218,200㎡**

15 陸の豊かさも守ろう



- ・チークのCO2の吸収量は約27.4トン/畝/年で概算の算定：3,663トン×18年として=65,934トン
- ・在来種は約15.75トン/畝/年、18年として累計は283トン/畝/年
- ・累計218ha×283トン=約**61,694トン**

13 気候変動に具体的な対策を



このプロジェクトには以下の企業、団体の皆様にも企業活動を通じて支援をいただいています。

(株)城山・(株)コンステック・(株)ワラケン・(株)アズ・(株)トラスキー・ヤフー(株)ソロプチミスト東京一西・(株)一富士通商・(株)ミツワ・阿部興業(株)・(株)宏和デザイン
建交労近畿地方協議会・一般社団法人環境メディアフォーラム・(株)富士通ゼネラル

大地に木を植えることは未来への懸け橋です。

「持続可能な未来への架け橋」

植林で拓く地球とあなたの未来

みんなで木を植えましょう

I Love Earth I Love Peace



❖現場で自然を感じてほしい

地表を覆うための再植林は、地球の環境保護と持続可能な地球の重要な要素です。

森林の減少は気候変動、生物多様性の喪失、土壌の劣化など、多くの環境問題を引き起こし負の連鎖を招いている現実を体感することが未来への懸け橋です。





木を植えて地表を守る

地表に木を植えることは、地球規模の環境問題に対処するための不可欠な手段です。

森は、生物多様性の宝庫であり、地球の気候を安定させる役割を果たしています。わたしたち人間の欲望は、過度の開発や不適切な土地利用により、森林は急速に減少を招いています。木を植えることは世代を超えて持続可能な地球環境を維持するために不可欠です。

伐採と山火事で壊れた天然
林にチークを植える



2001 年植林の始まりはこのような
現場にチークを植えることでした

厳しい気候条件の中、
20 年後ここまで回復
しました。



チーク植林開始から 23 年でここまで育っていますが、みんな同じように育つことは難しいことがわかりました。日本のような各一的な植林は、熱帯雨林の土壌条件が異なるために困難です。

生物多様性を維持するための植林～林業公社保護林

BUKIT BANGKIRAI 保護林訪問 12 月 10 日

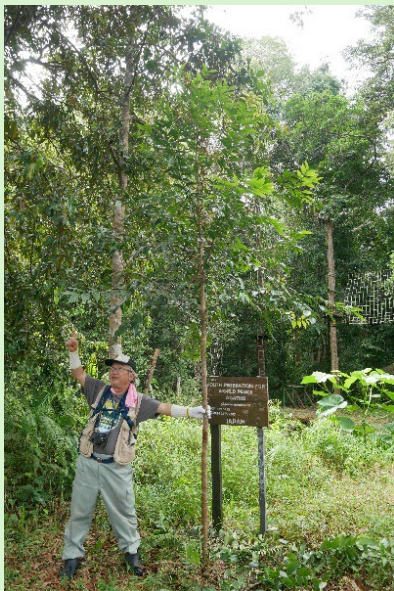


ブキットバンキライ保護林内の散策道入口

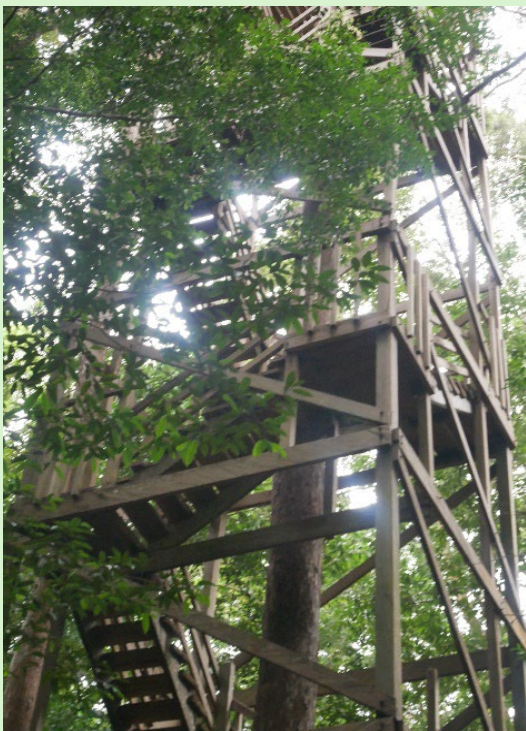


現場管理事務所にて打ちあわせ

2000年に初めてこの保護林に当時の社員の皆さんと植えたメランティー、直径40cmで驚き



2017年3月に世界学生青年連合の記念植樹のアガチス



吊り橋の上から熱帯雨林の姿を俯瞰できます。こんなにも豊かな森の木を切ってしまったことを人類は反省し、再植林を進める必要があります、そのことが地球環境再生の一步です。

残された自然の熱帯雨林には、偉大な自然の生命のチカラを感じます。

❖このエリアは森林火災被害をうけながらも難を逃れて生き残った熱帯雨林の様子、このエリアでは、メランティー、カポール、ビンタンゴール、ウリンのほか香木であるガハルなどの地場の樹種を植えてきました。現在は植える場所がなくなり植えていませんが、森は順調に育っています。



❖Km 30の荒廃地に植えているチークは直径 30 cmを超えるものも

※干ばつで葉はすべて落葉

して成長

阻害



チークはインドネシアでは、一次植生の樹として良く育ちますが、すべてが一斉植林のように育ちません。植林開始から3~4年ごとに大干ばつのエルニーニョの来襲があり、成長阻害を受け続けています。葉っぱは雨季になれば戻りますが、樹勢は回復しません。



熱帯雨林の再生植林：メランティ

インドネシアの自生種で熱帯雨林の最上層を形成する樹種です。
保護林や国立公園などに植えられます。

効果

- ・ 熱帯雨林の回復
- ・ 生態系の回復・保全
- ・ 水源涵養機能の回復・保全
- ・ CO2の吸収・固定（1本：約60kg/10年）

〈*環境省資料に基づく〉

- ・ カリマンタンの森には、オランウータン小動物、鳥などが生息し、多様性豊かな森をえています。
しかし彼らは、森林の減少によって住み処を奪われ、
今や絶滅危惧種となっていました。
メランティを中心とした多様性豊かな森をつくること
によって、安定した地球環境を目指します。



AGF N

❖熱帯雨林の天蓋を形成するメランティ

熱帯雨林の再生 = メランティを植える

- ・ メランティ（フタバガキ科）
- ・ 学名：Shorea spp
- ・ 熱帯東南アジアに広く分布する低地フタバガキ林で
優占種のフタバガキ科のレッドメランティ。
- ・ 熱帯雨林で一番大きく最高樹高70mにも育つ樹種
この樹种群を主要対象とした商業伐採により急速に
減少が進んでいて、持続可能な森林管理の確立が必要
- ・ 陽樹の段階では日陰を好む樹種なので灌木の茂る林の
樹下に植林をしています
- ・ 100年先に以前のような立派なジャングルの中心的な
樹木として成長してくれることを願って植林



❖メランティは熱帯雨林の中で一番高くなり、天蓋を形成する樹種です。

東カリマンタン州での植林は天然林の伐採から始まり、その後の焼き畑や、干ばつによる極度の乾燥、そして広大な面積の山火事で草原になってしまった大地の自然再生のために地元の人たちの収入源になるように 2001 年以来、経済的な価値の高いチークを植林してきました。しかし、チークを一斉に育てることも困難なこともわかり、もともとの自然植生の回復をするためにチーク植林の樹下にメランティを混植しています。メランティはこの土地の樹種ですが、強い太陽光の下では育ちにくいので、チークの育った林の下に植える方法が適していると考えて、2024 年 12 月から取り組みを始めました。



メランティを植える山岸さん

2年目のメランティ

メランティを植える中野さん

メランティの植林 2024年12月植林 100本

XX

人と自然の動植物が共に生きる

❖共生の森づくりとして、

多様な用途をもつモリンガを植え

地域住民の民生向上にも貢献する



なぜ、今、モリンガ植林の普及か？

モリンガの普及活動で分かち合いの素材として！

20年余りの植林を続けてきた私が、今なぜ、モリンガの植林の普及なのか？

私の植林活動の原点は「自然環境の再生」して気候変動を緩和し、住みよい世界を創造することでした。多くの皆様のご協力により、20年余りインドネシアでの植林活動でかかわってきた植林は、累計で約120万本を超えています。しかし、現代社会で排出されるCO₂の前では、それほど効果的ではないことを知り、大変落胆しました。

効果的な植林を模索する中で、2015年にモリンガという奇跡の植物の存在を知りました。

早くたくさんCO₂を吸収することで気候変動を緩和する樹木がモリンガです。

一般植物の20倍の成長をし、しかも「栄養価が高く」、人類が直面しているもう一つの課題「飢餓貧困」の解決にも役立つことがあります。

モリンガは現代社会のひずみを是正し、多くの人の人生を変えてしまうほどのインパクトがあります。

今を生きる人としてのミッションは「モリンガの普及を通じて多くの人々が幸せに暮らせる社会を創造する」にあります。

モリンガという植物には、その力があると信じて取り組んでいます。

❖モリンガの利活用で豊かな生活を！



❖事例紹介：株式会社アレン様の貢献 水系道床安定剤 SDGs 対応型

アレン様は、環境により良い「アクアテクトAi」というSDGs 対応型商品を開発し、**従来品より二酸化炭素の排出量を70%以上減らした製品を使用し作業環境や、周辺環境にも配慮し**、なおかつ、「**モリンガ**」という人にも環境にも役に立つ植物の植林に着目して、本来の環境活動へ貢献し、社会課題の解決にも貢献できる商品の取り組みをすすめています。

モリンガの植林活動を通じ、二酸化炭素の削減+ 酸素の供給 SDGs 4項目にも貢献できる、環境保護の取り組みを行います。

もろたい島でのモリンガ植林に2020年から支援をして頂いています。2024年末現在、累計で 7544本になります。



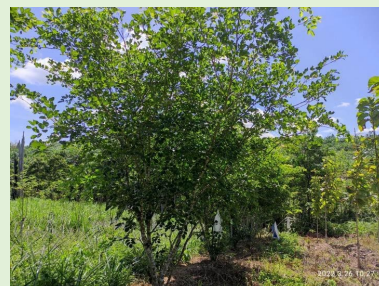
❖ポンガミアを植えて植生を豊かにし、人の生活を支える

次世代を担うバイオマス燃料植物 ポンガミアを植える



❖収量が多く、環境負荷が低い

- ポンガミア（英名：Pongamia pinnata）はインド原生のマメ科植物です。
- このポンガミアの実は油糧が40%あり、1ヘクタール（ha）あたり5トンのバイオ燃料が取れると考えられています。現在、バイオ燃料の主であるパーム油と同じであり、他の油脂植物と比較しても生産性は良いです。
しかもパーム油が食用油であるのに対し、ポンガミアは非食用で食料と競合することはありません。
更に根にある根粒菌が空気中の窒素を取り込み、土壌を肥やす効果もあります。
- ポンガミアは「収量が多く」「環境負荷が低い」といった特徴を持つ次世代を担うバイオマス燃料植物です。



AGFN

早生樹は、植生が失われた土地で一番初めに育つ、一時植生と呼ばれています。この樹種の利用は、環境への影響を最小限に抑え、植生の復活をすることが可能です。また、早生樹は、早くたくさん炭素を吸収するという観点からも重要で、気候変動対策においても効果的な手段となり得ます。

❖生活改善と地域別再植林

地域別の再植林戦略は、地球規模での土地の有効利用と森林保全において極めて重要です。各地の気候、土壌、生態系の特性を考慮した再植林は、効果的な森林回復を実現します。

例えば、東カリマンタン州は熱帯地域で多様な樹種を用いた混交林の形成が適している場合があります。その答えを得るためには、試行錯誤を繰り返しながら、様々な樹種を植林して生育状況を観察し、正解を探る必要があります。

このため試みとして、モリングアやポンガミアなどを試験的に植林しています。

地域の生態系に合わせた植林は、生物多様性の保全だけでなく、地域社会の持続可能な発展にも寄与します。また土壌の改善のためと食糧確保のためにムクナ豆も混植を始めています。再植林における環境保護と経済性のバランスは、持続可能な森林管理の鍵です。

再植林は、生態系の回復と炭素吸収の促進に役立ちます。

東カリマンタンでは各種の苗を試験植林！



モリングアを植える



ポンガミアを植える



土壌改良にムクナ豆を植える

エコノミー植林：チーク 東カリマンタン州の伐採跡地

チークは欧米を中心に、家具やフローリングなどに幅広く使用される高級木ですが、その供給量は世界的に激減しています。生長した木を伐採して収入として利用、循環する林業を目指せます。このことで天然林の違法な伐採を防ぐ一助になります。

効果

- ・ 持続可能な木材生産
- ・ 木材収益の享受
- ・ 天然林伐採の抑止
- ・ CO2の吸収・固定（1本：約132 kg / 10年）

〈*インドネシア林業公社によるデータに基づく〉

- ・ 20～30年間で直径30cm、高さ10mの生長が見込んでいます。木材資源として供給します。
- ・ 木材としての売却益は、地元民の生計向上に役立ちます。
- ・ 木と木の間を利用して農作物を栽培するアグロフォレストリーを採用し、周辺農民の雇用や現金収入の機会を創出します。



❖チークの植林地の状況



草原を刈り取り植穴を掘って始めました。



植えた後草が繁茂してきます。



植林後 6 カ月



植林後 5 年



植林後 7 年」



植林後 15 年目の植林地、道路沿いは育ちがいい



※植林後 20 年の全景を撮影したもの、全体に良く成長している様子がわかります

■植林活動に参加する方法を紹介します。

1. 現地植林体験ツアーに参加する:毎年 12 月に体験ツアーを実施

インドネシアのバリ州では火山爆発で被害を受けたバツール湖周辺の植生の復活のための植林を体験し、東カリマンタン州では、森林火災により被害を受けた土地の再生植林を通じて、熱帯雨林の現場で木を植える体験を通じて、植林による森林の再生の重要性を理解していただきます。

海外植林ボランティアツアー参加の魅力

自然とふれ体感できる
大地、大気、水、太陽、生物に感謝
自然とのつながりを体感できる

世代を超えた活動を体験
世代を超えてより良い地球環境を託す喜び
100年先を考え次世代に引き継ぐ植林
持続可能な地球づくりに貢献する喜び

暮らしを見つめなおす
今生きている人間社会の価値観を考え直す、自然とのかかわりや暮らしを見つめなおす機会を与えてくれる

非日常の中に身を置き癒される
リラックス、ストレス解消、笑顔になれる

国境を越えて、地球にかかわれる
グローバルな地球規模の問題に自らをかかわることができる。地球市民という一体感が得られ、視野が広がる

だれでもが平等、フラットな関係
自然はだれでも受け入れてくれる。植林体験を通じて自然の中ではすべてが平等を共有できる。新たな出会いができる。誰でも気軽に一人でも参加できる。

結果はすべて自分に返ってくる
自然を守り、その恩恵を自分も浴することへの感謝
地球とあなた自身のGive and Take
だれでもが地球上で生かされていることを体感

地元の若者との交流ができる。
植林を通じた一体感、仲間が得られる

バリ植林ツアーで「地球に生きるを体感！」



地球との対話・自然との交流

母なる大地の声を聞いて、生命の洗濯を！

日常生活でできないあなた

の地球との対話をしてみま

せんか？

※日本では体験できない自然破壊、火山灰と火山礫、溶岩の堆積した土地に植えています。

2. 地球の未来に植林寄付をする:マンスリーサポーターで貢献

アジア植林友好協会では、2000 年の大きな山火事で被災した東カリマンタン州で初めて寄付を通じて植林活動を行っています。その後バリ州の火山爆発被災地の修復のための植林活動をはじめ、2020 年からは、旧日本軍の戦いの後の荒廃地での植林を実施しています。これらのプロジェクトは

① 生命の森づくり ② 世界平和の森づくり ③ 共生の森づくり のプロジェクトごとにも、支援を賜っています。

◆ 毎月定額の寄付をして頂くマンスリーサポーターも募っています。 <https://congrant.com/project/agfn/2004>

3. 植林している企業の商品を購入し支援する:

❖事例紹介 ステテコの森 teco-T

2009 年に開始

「ステテコの森」プロジェクトですが、こちらの経済事情によって、ある年は植林を実施したり、ある年は実施しなかったり



❖ 2024 年 12 月 10 日の状況。

というのが実情で、この点が課題だなと感じていました。

そこで、継続的に植林を実施する方法はないものかと考え生まれたのが teco-T です。樹下植林した木々はよく育ち、熱帯雨林の再生に向かっていきます。(株)アズ様の取り組み事例です。

4. 当協会（AGFN）を支援する:

植林する現場の状況や地域により違います。詳しくはお問い合わせください。

❖ 植林の大切さを知って行動しませんか？ ご存じですか？「植林」なぜ、植林をするの？

- ① 空気をきれいにします
- ② 樹木が温室効果と闘います
- ③ 木は酸素を供給供給します
- ④ 木々が通りや街を冷やします
- ⑤ 木々がエネルギーを節約します
- ⑥ 木は水を節約します
- ⑦ 樹木は水質汚濁の防止に役立ちます
- ⑧ 樹木は土壌浸食を防ぎます
- ⑨ 樹木が子供たちを紫外線から守ります
- ⑩ 木は食べ物を提供します



- ⑪ 木による癒し樹木が暴力を減らします
- ⑫ 木々が季節を告げます
- ⑬ 樹木は経済的機会を生み出します
- ⑭ 木は教師であり、子供たちの遊び相手です
- ⑮ 樹木は多様な人々のグループを結び付けます
- ⑯ 樹木は一体感
- ⑰ 樹木は野生生物に天蓋と生息地を提供します
- ⑱ 木が物を遮ります
- ⑲ 木は木材を提供します 次世代への継承を！
- ⑳ 樹木がビジネスのトラフィックを増加させます



再植林は、失われた自然を回復させ、人類の生存を担保するための重要なテーマです。

植林は日常の生活では距離のある存在ですが、世界的な森林減少の現状からも、再植林は生物多様性の保護、気候変動の緩和、土壌の健康回復など多面的な環境への影響を持ちます。今後も森林研究は、再植林の未来を形作る上で不可欠であり、地域別の再植林戦略は、地球の自然環境を守るための効果的なアプローチを提供してくれます。

再植林における環境保護と経済性のバランスは、持続可能な生存の鍵であり、国際的な取り組みと協力によって、より広範囲での環境創造と森林保全が可能になります。

持続可能な未来のために info@agfn.org

TEL:04.2968.6343



～このままでは次世代に引き継ぐことができない～